

2種類の新型コロナワクチンの違いについて

当院では、新型コロナウイルス感染症に対するワクチンとしてファイザー社製の「**コミナティ**」および武田薬品・ノババックス社製の「**ヌバキソビッド**」の2種類を使用しています。これらは新型コロナウイルスに対する免疫をつける仕組みが異なるワクチンであり、それぞれにメリット・デメリットがあります。以下をご確認いただき、ヌバキソビッドをご希望の場合はお申し付けください。ご希望がなければコミナティをご用意いたします。

● ワクチンの原理について

ウイルスに対する免疫をつけるには、ウイルスの「顔」を身体に覚えさせる必要があります。この「顔」を覚えさせるためにウイルスという指名手配犯の貼紙を作る仕組みが、2つのワクチンで異なります。どちらも「スパイクタンパク」というウイルスの極一部を指名手配犯の貼紙として使用しています。指名手配犯には鼻や目に特徴があったりしますが、コロナウイルスの場合はスパイクタンパクに特徴があるのです。



➤ コミナティ（mRNA ワクチン）

これまで新型コロナウイルスワクチンとして使用されていたものです。

mRNA ワクチンはスパイクタンパクの設計図（mRNA）を身体に注射し、身体の中のタンパク質工場でスパイクタンパクを作ります。免疫を担当する細胞がこれを認識して免疫を獲得する仕組みです。

mRNA は数日で分解されスパイクタンパクを際限なく作ることはありません。

➤ ヌバキソビッド（不活化ワクチン）

厳密には「組換えタンパクワクチン」という種類のワクチンです。これまで新型コロナウイルスワクチンとして使用されていたものとは仕組みが異なりますが、B型肝炎や帯状疱疹に対するワクチンとして使用されています。

こちらは身体の外で作成されたスパイクタンパク自体を注射することで免疫を獲得する仕組みです。スパイクタンパクと一緒に、免疫を賦活する（ムチを打つ）物質と一緒に投与されます。



● ワクチンの効果について

2つのワクチンで統計学的に差がないことが示されています。ただし、使用された回数はコミナティの方が圧倒的に多くヌバキソビッドは比較的少ないため、そのようなデータは豊富ではありません。「1つの研究でたまたまそういう結果が出ただけ」、すなわち「実はコミナティの方が重症化を予防する」という可能性があります。

● ワクチンの副反応について

コミナティの接種後は、注射した部位の痛みや腫れに加え、発熱・だるさ・筋肉痛・頭痛などの全身性の副反応が、概ね60%の方に出現します。

それに対してヌバキソビッドでは、全身性の副反応が少ないと報告されています。ワクチンを2回接種済みの20-64歳の方へヌバキソビッドを追加接種した場合、発熱は10%未満、だるさは30%程度でした。注射した部位の痛みなどはヌバキソビッドでも70%以上の方で出現します。

● その他

先述の通り、有効性・その持続期間・安全性についてのデータはコミナティの方が圧倒的に豊富です。逆にヌバキソビッドは2022年から使用されているもののまだまだ接種回数が少なく、極めて稀な副反応についてはまだ認識されていない可能性も残っています。これらを総合的に考え、当院ではコミナティを原則としています。

一方で、ヌバキソビッドは発熱などの全身性の副反応が少なかったという点については大きなメリットかと思います。例えば「mRNAワクチンを2-3回打ったけど、発熱などが辛かったから以降は打っていない」という方には良い選択肢と考えています。

以上の内容にご不明点がございましたら、相談料を頂戴いたしますがワクチン外来（毎月第3金曜日）にてご相談を承ります。受付にお申し付けください。皆様が最善な選択が出来るよう、お手伝いさせていただきます。

新山手病院 感染対策室 奥田

